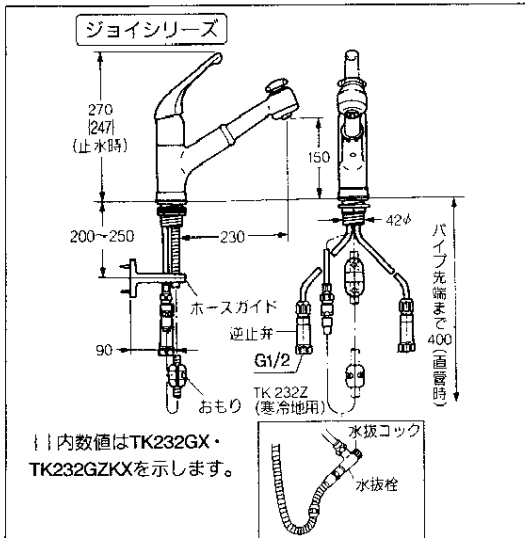


シングルレバー混合栓取付説明書

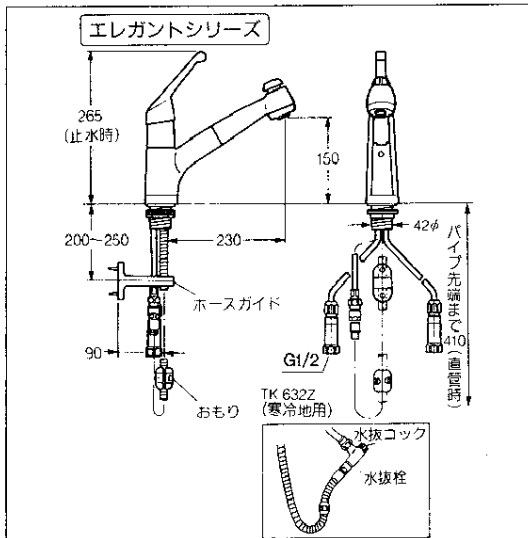
完成図

TK232 (一般用) TK232Z (寒冷地用)
TK232GX (一般用) TK232GZKX (寒冷地用)



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

TK 632 (一般用)・TK 632Z (寒冷地用)



使用条件

1. 混合栓の使用圧力は0.5~7.5kgf/cm²です。
2. 使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組合せる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(下表参照)
最高水圧………7.5kgf/cm²

器具入口部における最低必要水圧(kgf/cm²)

給湯機の種類	号数	最低必要水圧
能力手動切替タイプ	12号	A+4.2
TOTOカスタム制御	10号	1.1
	16号	
	20号	
比例制御タイプ	TOTOトリコンシリーズ (トリコン、コンタクト、アクティ)	0.9
	16号	
	20号	
	24号	
TOTOコマンド	16号	0.8
	24号	

注) 表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

(設定条件)

- レバーハンドルは全開
- 吐水温度：38℃
- 給湯配管長さ：5m
- 給湯機が着火する下限の圧力とする。

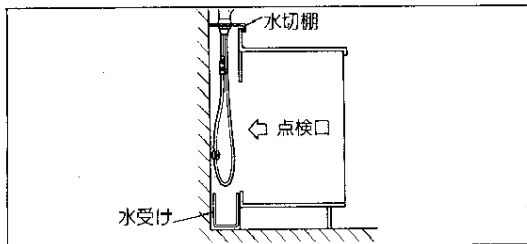
- 水温の高い(25°C)夏期に着火させることを想定。
- 能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定。
- 比例制御タイプの出湯温度:60°C
- ※能力手動切替タイプで水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

(2)貯湯式給湯機と組合せる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力………0.5kgf/cm²
最高圧力………7.5kgf/cm²

給水、給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

3. 給湯に蒸気を使用しないでください。
4. 湯・水を逆配管しないでください。
給水パイプには◎ラベルを、給湯パイプには⊕ラベルを張付けています。なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
5. 水切棚に取付けるときは、必ず点検口と、水受けを設けてください。
使用中にホースからの伝い水が侵入することがありますので、水受けと点検口を必ず設けてください。
設けられない場合は水切棚には取付けできません。



6. 水勢調節や保守点検時のため、止水栓(別途手配)を必ず取付けてください。

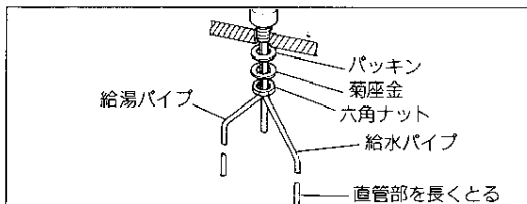
器具の取付け

1. 給水管内の清掃

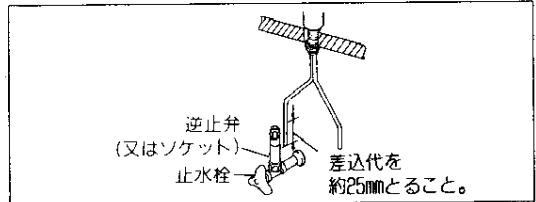
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 混合栓本体の取付け

- (1)混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出し芯に合うように曲げて広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。



- (2)逆止弁(寒冷地用の場合はソケット)を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。

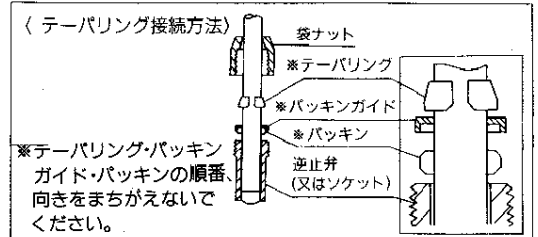
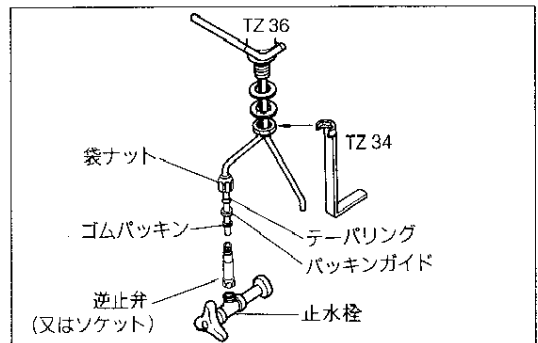


- (3)給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、パッキンガイド、ゴムパッキン、の順に入れて、逆止弁(又はソケット)を差込んでください。次に逆止弁(又はソケット)を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売のナット締付専用工具(TZ34、TZ36)を利用して確実に締めてください。

※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れを取り、セパレート紙をはがしてください。

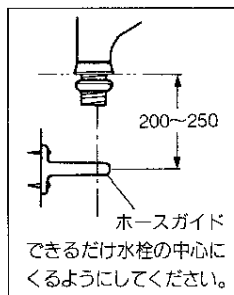
- (4)最後に給水・給湯パイプを逆止弁(又はソケット)に押しつけ、手締後1回転以上締付けてください。

注:給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かないよう確実に固定してください。



3. ホースガイドの取付け

ホースガイドは、ホース出し入れのときのガイドになりますので、スムーズに出し入れができるように図の位置に取付けます。



注：ホースガイドの取付部の強度が弱い場合は補強材を入れてください。

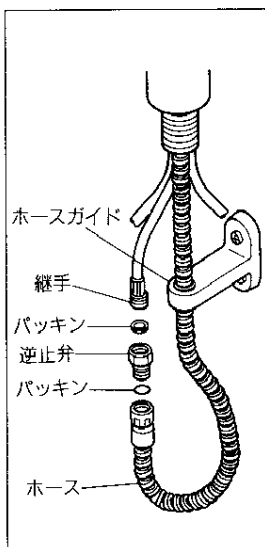
注：TOTOシステムキッチンにお取付けの場合は別途施工マニュアルをご参照ください。

4. ホースの取付け

TK232・TK232GX・TK632 (一般用)

(1) 逆止弁を本体下部中央の継手と接続します。このとき、パイプ部がねじれないよう、継手の六角部をスパナで保持して締付けてください。

(2) ホースをホースガイドに通してから逆止弁に接続します。このとき、逆止弁の六角部をスパナで保持して締付けてください。



TK232Z・TK232GZKX・TK632Z (寒冷地用)

(1) ソケットを継手1.と接続します。このとき、パイプ部が、ねじれないように継手1.の六角部をスパナで保持して締付けてください。

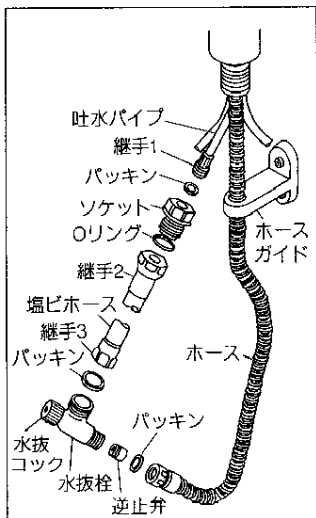
(2) 継手2.をソケットと接続します。このとき

もパイプ部がねじれないようにソケットの六角部をスパナで保持して締付けてください。

(3) ホースを、ホースガイドに通してから水抜栓に接続します。

(4) 継手3.を水抜栓に接続します。

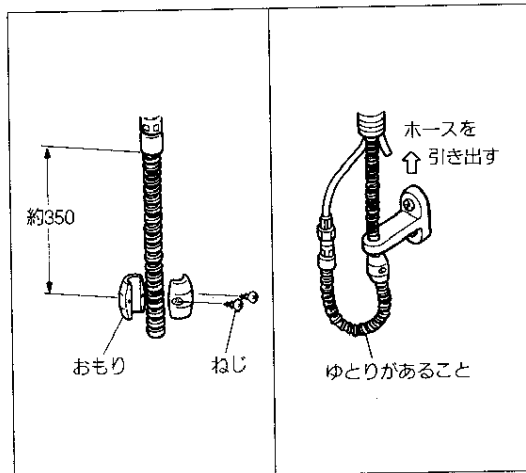
(5) ホース取付け後、ホースのねじれ及び水抜栓と止水栓とがあたらないか、十分チェックします。万一、ハンドスプレー引き出し時に、水抜栓と止水栓とがあたる場合は、吐水パイプを若干曲げる等してください。



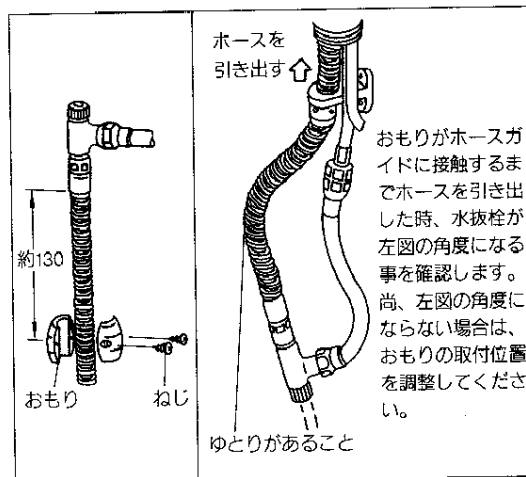
5. おもりの取付け

おもりは、ハンドスプレーの納まりをよくするためと、引き出したときのストッパーの役目をします。図の位置にしっかりと取付け、スプレーをいっぱい引き出した状態でホースにゆとりがないときは、おもりの位置を適当にずらしてください。

TK232・TK232GX・TK632 (一般用)



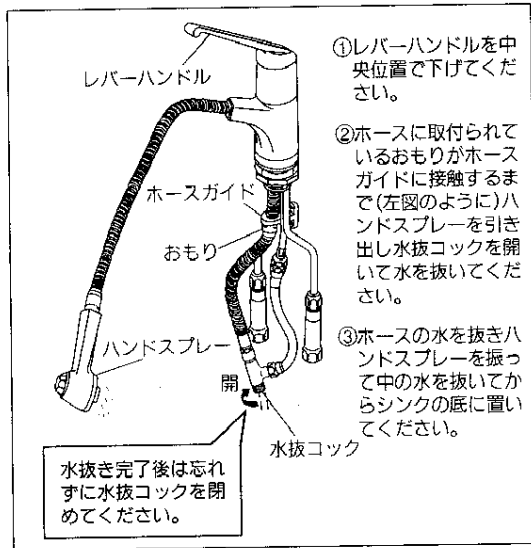
TK232Z・TK232GZKX・TK632Z (寒冷地用)



寒冷地の水抜き方法

寒冷地用の場合は、器具内の水を抜くため、ホース部に水抜きコックを設けています。

凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜き栓の操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。またお客様にも水抜き方法をご指導ください。



お手入れ

めっきされた器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

1. 普段からまめに柔らかい布でみがき、ときどきミシン油やカーワックスなどをしみこませた布でみがくこと。ただし樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
2. クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
3. 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

分解と点検

取付後万一故障などで分解するときは、次の要領で行ってください。

ご注意

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1・2
水が止まらない ハンドル部から水が漏れる	3・4
吐水温度不良	1・2
ハンドルががたつく	5

